

令和2年10月

「新しい時代の初等中等教育の在り方特別部会」における  
関係団体ヒアリング資料

全国国公立幼稚園・こども園長会  
会長 箕輪 恵美

幼稚園教育要領等に「幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり」とあるように、Society5.0時代に活躍できる人材を育成するためには、幼児期からの教育の積み重ねが重要と考えます。そこで、今回のヒアリングでは、新しい時代の初等中等教育の在り方について平成31年4月17日に諮問された内容及び現場での課題を踏まえ、「幼児教育の質の向上」を推進するために特に重要と思われる「教員の資質向上」「人材確保と人材育成」「必要な条件整備」の三点を中心に意見を申し上げます。

○教員の資質向上を支えるために必要な取り組みを推進する

・教員が幼児教育について深く学び、専門性を高める機会を今後も保障する

教育の質を支えているのは、教員一人一人が常に学び続けていることです。教員の資質向上は教育の質の向上に直結しており、よりよい実践を行うためには教員の研修が非常に重要です。近年、自治体によっては幼稚園やこども園の所管が教育委員会以外の部署に移る事例が増えつつありますが、幼稚園及びこども園には幼児教育を行う施設として、今後も、教育に関わる最新の情報が行き渡るよう、また、教員が教育に携わる者としての専門性を高めるために学ぶ機会を保障する必要があると考えます。

・地域で幼児教育を学ぶ拠点として、国公立の幼稚園・こども園を活用する

国公立の幼稚園・こども園は、幼稚園教育要領及び認定こども園教育・保育要領に示された内容について園内及び園外での研修を通して理解を深め、要領に示されている内容に基づいた実践を行っているため、今後、幼児教育の質の向上を図る上で、国公立の幼稚園・こども園を地域の研修の拠点として活用することが有効であると考えます。

例えば、国公立の園が日頃の実践を公開する場に地域の国公立及び保育所・幼稚園・認定こども園の枠を超えて集い共に学ぶことで、その地域の教員・保育士が必要な情報の共有、意見交換を通して学びを深めることが実現できます。また、国公立の園の中堅教諭や管理職が地域の研修会でコーディネーターや講師を務めることで、要領に示されている内容を実践を通してより深く学ぶ機会にすることもできます。近年では、国公立の園で現場経験のある者が地域の幼児教育の指導役となるケースも増えつつありますので、そのような形で地域の幼児教育の質向上に寄与することもできます。

○人材確保と人材育成を中長期的に計画的に進める

・現場で幼児教育に携わる優秀な人材を確保する

「新しい時代の初等中等教育の在り方について」関係資料の中で、公立学校教員採用選考試験の倍率の推移が示されていますが、同じような状況が幼稚園教諭採用でも起こっています。幼児の成長を促す上で影響力が大きい人的環境である教師には、志が高く、幼児一人一人に寄

り添いながら成長を支えることにやりがいと誇りをもち、教師としての高みを目指して学び続けることのできる人材が必要です。しかし、教師という職業に対する世の中の印象が大きく様変わりし、非常勤率の高さも背景としながら、質の高い教員の確保や育成が非常に難しくなりつつあります。働き手が減少の一途をたどる中で優秀な人材を確保するためには、教師がいかに魅力的な職であるかを様々な手段で示し、教職を目指す人材の掘り起こしを行うことが急務と考えます。また、未来の担い手である子供たちに幼児期から質の高い教育を提供するためには、養成校の段階から採用、研修、人事等まで一体的な力強い方策の実行も必要であると考えます。

#### ・質の高い幼児教育をリードする人材の育成を計画的に進める

幼児教育の質の向上を実現するためには、質の高い幼児教育を牽引する人材の育成も急務です。幼稚園教諭免許状の上進を今後も積極的に進めると共に、大学院等で幼児教育をより深く学び現場や養成校で幼児教育のリーダーとなる存在を輩出できるような方策を講じる必要性を感じています。

### ○質の高い教育を提供するために必要な条件整備を進める

#### ・どのような状況においても質の高い幼児教育を提供し続けることができる環境を整える

幼児教育現場での ICT 環境の整備が非常に遅れていることはコロナ禍において浮き彫りとなり、危機管理の視点からも、教育の質を維持向上する視点からも、急ぎ改善を要する状況です。ICT 環境の整備を進めると、例えば会議や研修も内容によってはオンラインで開催することができ、教員の働き方改革も大幅に改善できる可能性があります。また、緊急時に情報共有や協議が迅速にできる体制を整えることは、地域の幼児教育をどのような状況においても機能させ続けることにつながり、子供たちの学びを保障する上でも重要であると考えます。

#### ・少子化やコロナ禍を踏まえて幼児期の学びに適した一学級の幼児数を検討する

全国の国公立幼稚園・こども園ではコロナ禍における工夫の一つとして分散登園や学級を半分に分けた教育活動を行った園が多数ありました。実践した現場からは、通常より少ない人数で教育活動を行ったことは当初は密を避けるための目的だったものの、実際には、幼児一人一人との信頼関係を築きやすく、きめ細やかな援助を行うことができたことに教育効果が上がった手応えを実感した、という声が多くあがっていました。幼児一人一人の主体性を大切にする幼児教育の中で Society5.0 時代に活躍できる力の素地を着実に育むために、そして、今後少子化がさらに進む現状を鑑み、幼児期の学びに適した一学級の幼児数についても検討する時期であると考えます。

#### ・特別支援教育を推進するための諸条件を整備する

国公立幼稚園・こども園は園の置かれている地域に広く門戸を開いているため、特別な支援を要する幼児や外国人幼児をもつ保護者が我が子に幼児期の教育を受けさせたい、と希望した際の入園先となることが増えています。一方で、受け入れ体制は十分とは言い難く、個々の特性や適性に合わせた教育が行われる特別支援学校の幼稚部の設置は全国的にも少なく、普通学級に受け入れる場合のサポート体制も十分でないことが多い現状があります。特別な支援を要する幼児や外国人幼児を含め、全ての幼児に学びを保障して誰一人置き去りにしない教育を実現するという視点から、幼児期からの特別支援教育を支える具体策を行政全体で検討し、実行する必要があると考えます。